Ⅴ　術後洗浄式

1）システム図（図16）

図16 システム図

2）用意するもの

<自己血回収システム付属品>（図17）

・自己血回収装置
・処理セット
・リザーバー
・術後吸引ライン
・輸血用予備バッグ（必要に応じ）

<あらかじめ病院で用意するもの>

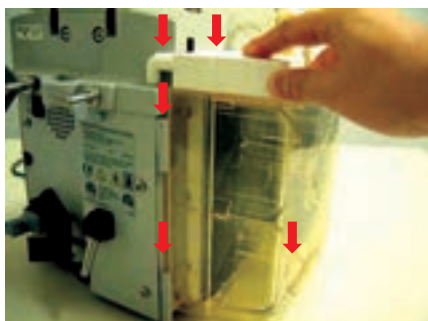
・ヘパリン加生理食塩液（生理食塩液1,000mlに対し、ヘパリン30,000単位を混合）（機種によって必要な場合がある）
・洗浄用生理食塩液
・リザーバー吸引ライン（機種によって必要な場合がある）
・リザーバー吸引源（機種によって必要な場合がある）
・ドレーンチューブ
・輸血セット

オーソパットシステム本体＋IVポール
オーソパット用ディスポーザブル
洗浄用生理食塩液（1000mL×1本）

図17 準備品の一例

3）回収前の準備

取扱説明書に従い、ディスポーザブルなどを自己血回収装置に装着する。（図18、図19）

❶ リザーバーを装着

❷ 遠心ディスクを押し込む

❸ 固定リングを装着（細い端部から）

❹ ストップコックを装着
（流入／流出ストップコック）

❺ スライドを手前に引き、ヘッダーアームを下げてロックの確認

ロックの確認
❶ ヘッダーアームのスライド部分が押し戻されたか確認
❷ アームとディスク上部に上下のブレがないか確認

図18 ディスポーザブルの装着1

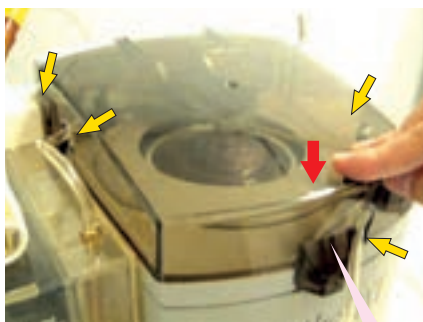
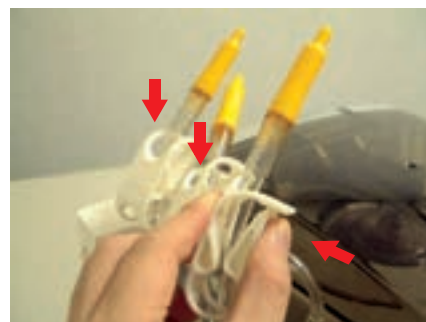
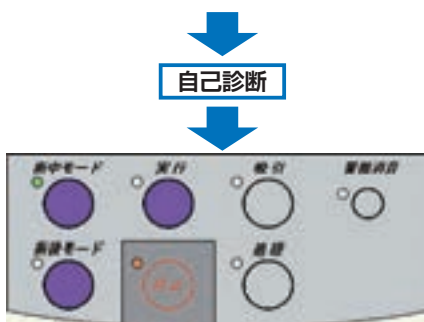



図19 ディスポーザブルの装着2

4) 回収処理の手順（図20、21、22）

(1) 無菌的にドレーンチューブおよび術後吸引ラインの袋を開け、滅菌紙に包まれた回路を術野へ渡す。

(2) 術後吸引ラインを術野から受け取り、無菌的にリザーバーへ接続する。

(3) リザーバーの吸引圧を設定する。

(4) メーカー推奨に従い、ヘパリン加生理食塩液の滴下が必要であれば出血量に応じて術後吸引ラインのヘパリン加生理食塩液滴下量を調整する。

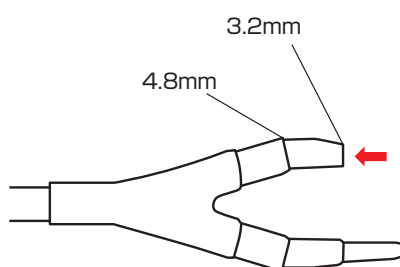
(5) 創部が完全に縫合されたことを確認し、ドレーンチューブと術後吸引ラインを接続後、取扱説明書に従って回収処理を行う。

(6) 当該患者氏名などを返血バッグに記載する。

注釈）術後モードに移る前に、術中の回収血を全て処理する場合は「空になるまで処理」を参照してください。

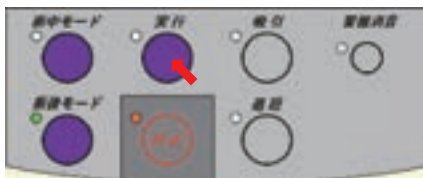
❶ 術後モードキーを押す

❷ Yコネクターチューブ Yコネクター部をドレーンチューブの外径に合わせて切断

3.2mm
4.8mm

❸ ドレーンチューブの先端を約45度に切断し、Yコネクター部に3cm以上挿入

❹ 100～300mLのヘパリン加生食でリザーバーをプライミング後、リザーバーポートクランプを閉じる

❺ Yコネクターチューブの黄色いキャップ側を術後用リザーバーポートに接続し、クランプを開放

❻ 創部が縫合されたのを確認後、実行キーで処理・吸引を開始

❼ 吸引キーで吸引圧を選択（初期設定値は－75mmHG）

❽ 電源プラグを抜いて病棟へ帰室

注1 電源は切らないでください。
注2 内蔵バッテリーはフル充電時で約30分稼働します。帰室後は速やかに電源プラグを差し込んでください。（充電には約4時間かかります）

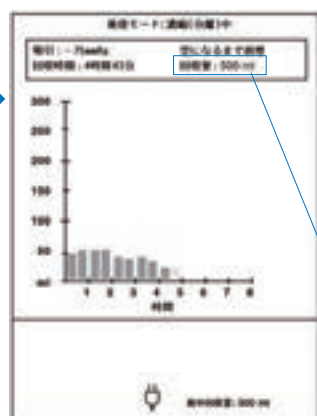
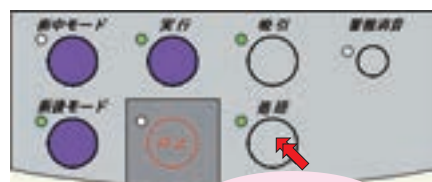
図20 回収処理の手順1

図21 回収処理の手順2

空になるまで処理

❶ 処理キーを2度押し
（0.5秒以内に2回押す）

ダブルクリック!

❷ パネル表示の確認

処理時間は約20分
（残留量に依存）

空になるまで処理
回収量：500 ml

“空になるまで処理”表示

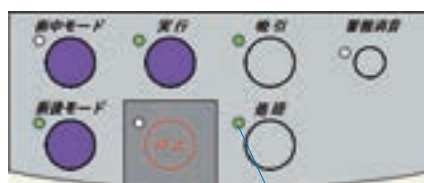
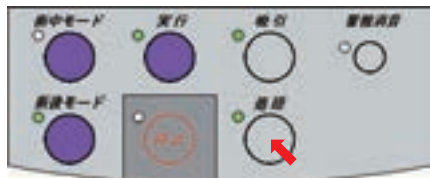
❸ リザーバーが空になると前のモードに戻る

“処理”キーライト点滅

図22 回収処理の手順3

5) 返血の手順（図23）

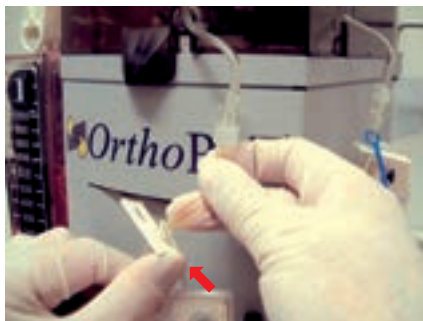
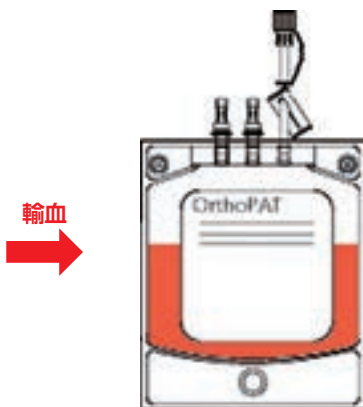
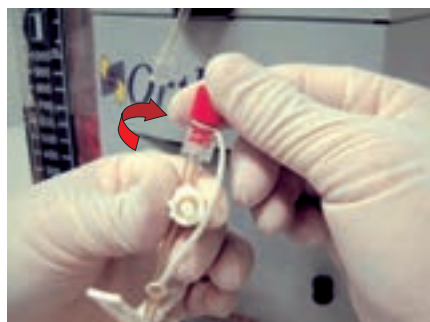
（1）回収処理が完了したら、取扱説明書の手順に従って、返血バッグを取り外す。

（2）各医療施設の標準手順に従って輸血する。

❶ 処理キーを押し処理機能をオフ

❷ 返血バッグのスライドクランプを閉じる

❸ ルアーコネクターを外す

❹ 返血バッグに赤キャップをする

輸血

注釈）各施設の標準作業手順に従って輸血してください。

警告）術中回収した血液は処理終了後4時間以内に輸血してください。

術後回収した血液は回収開始後6時間以内に輸血してください。

加圧輸血はしないでください。

（返血バッグには少量の空気が含まれています）

回収血は微小凝集塊を含んでいる可能性があります。マイクロアグリゲートフィルター付き輸血セットを用いて輸血してください。

1) AABB Standards for Perioperative Autologoue Blood Collection and Administration (2005)
2) AABB Guidelines for Blood Recovery and Reinfusion in Surgery and Trauma (1997)

図23 返血の手順

6) 回収処理後の処置

（1）術後回収終了後はメーカー推奨に従い、ドレナージに切り替える。

（2）回収処理が完了したら、取扱説明書の手順に従って、使用したディスポーザブルなどを取り外す。（図24）

（3）取り外したディスポーザブルなどを院内の医療用廃棄物処理手順に従って廃棄する。

廃棄

❶ 回収量を記録

❷ 電源スイッチを切る

❸ 術中なら…………

壁吸引ラインの接続を外し、

抗凝固剤液ラインのローラークランプを閉じる

❹ 返血と廃液バッグのスライドクランプを閉じ、

ルアーコネクターを取り外す

❺ リザーバーポートのクランプを閉じる

❻ 装置のカバーを開け、ヘッダーアームのスライドを手前に滑らせ、上部後方に引き上げる

❼ ストップコックをバルブより外す

❽ 白い固定リングを外す

注意）固定リングは次回使用のため、遠心器に戻しておいてください。

❾ ディスクヘッダーの両脇に指を引っかけ上方に取り外す

❿ リザーバーを上方に取り外す

⓫ 全てのディスポーザブルを感染性医療廃棄物として廃棄する

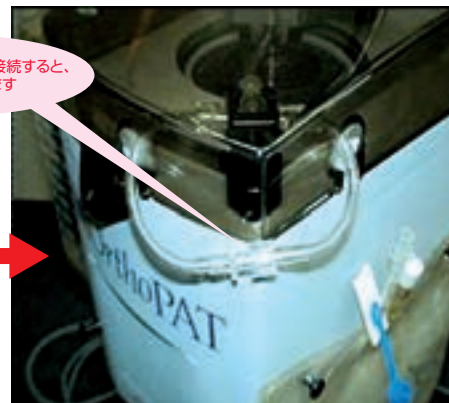



図24 ディスポーザブルの廃棄

返血 / 廃棄

（図10～15、図17～24はヘモネティクスジャパン合同会社提供）

7）実施上の留意点

（1）血液の吸引は通常使用しているドレナージの圧力で行う。

（2）回収血はメーカー推奨量の生理食塩液で洗浄する。

（3）ドレーンチューブ留置中は適切にドレナージされていることを確認する。